放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：2025年　10月　　事業所名　　放課後等デイサービス虹色ポケット

		チェック項目	実数			割合
			はい	いいえ	合計	はい　いいえ
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	0	9	100% 0%
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	0	9	100% 0%
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	0	9	100% 0%
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	0	9	100% 0%
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	0	9	100% 0%
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9	0	9	100% 0%
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	9	100% 0%
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	9	100% 0%
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9	0	9	100% 0%
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	0	9	100% 0%
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	0	9	100% 0%
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9	0	9	100% 0%
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	0	9	100% 0%
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	9	0	9	100% 0%
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	0	9	100% 0%
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	0	9	100% 0%
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	0	9	100% 0%
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	0	9	100% 0%
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9	0	9	100% 0%

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	0	9	100% 0%
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	0	9	100% 0%
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	0	9	100% 0%
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	0	9	100% 0%
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	9	0	9	100% 0%
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9	0	9	100% 0%
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	0	9	100% 0%
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	0	9	100% 0%
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9	0	9	100% 0%
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9	0	9	100% 0%
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9	0	9	100% 0%
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	9	0	9	100% 0%
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	9	0	9	100% 0%
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	9	0	9	100% 0%
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	0	9	100% 0%
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	0	9	100% 0%
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	0	9	100% 0%
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0	9	100% 0%
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	9	0	9	100% 0%

保護者への説明責任等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	0	9	100% 0%
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	9	0	9	100% 0%
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0	9	100% 0%
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9	0	9	100% 0%
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0	9	100% 0%
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	0	9	100% 0%
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9	0	9	100% 0%
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	0	9	100% 0%
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	0	9	100% 0%
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	0	9	100% 0%
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	0	9	100% 0%
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	0	9	100% 0%
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	9	0	9	100% 0%
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0	9	100% 0%
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	0	9	100% 0%
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9	0	9	100% 0%

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表　2025年　10月

事業所名　放課後等デイサービス虹色ポケット

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	支援室・学習室に、各2間あり、利用者の様子に応じて使い分けられるようにしている。	部屋の区切りが多く、死角ができるため、部屋の使い方や職員配置が課題。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	職員配置は有資格者、児童指導員と基準に合わせて職員を配置している。	個別対応が必要な場合には、状況に合わせ職員で声掛けをおこなったり、急病等のときには職員配置の変更をしている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	適切になっている。	現在は歩行に困難が生じる利用者がいない為スロープを外している。必要性が生じた場合設置する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	利用者の特性に合わせて工夫している	死角が出来てしまう場面があるので職員同士声をかけて見るようにしている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	利用者の特性に併せた場所の提供や和室などを使ってリラックスできるようにしている	気になって他の子が来た時には、今何をしているのかを話をして、個別に慣れるように対応しています。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	毎日必ずミーティングを行いPDCAサイクルを活用し全職員が周知しております。	定期的に会議を行い、全職員が支援の在り方を継続して共有できるようにしていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	家族からの情報・意向を職員間で共有し把握し改善います。	評価表だけでなく、状況に合わせてその都度改善していくように対応していく
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	会議等を行い、職員が共通理解や改善できる所など話し合っている	会議では、気になる点などのを全員が共通認識できるようにその日休みの職員にはノードなどを見てもらうようにしている
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	まだ実施されていないが今後に向けてやっていきます	今後実施される時には、誠実に対応していきたいと思います。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	年間計画で研修を行い、職員のスキルアップを実施している	年間で計画している以外にも研修に参加したり、動画を視聴したりします。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	ホームページに公表されている。個別の内容を通してより質の良い支援を努めている	5領域から支援プログラムを作成し、利用者に対してより良い支援ができるように努めています。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	保護者の方とお話する機会を設け、課題等を把握し、その上で支援計画を作成している。	アセスメントの内容が職員にも周知する必要がある場合は必ず伝え、計画・評価を全員が共通理解できるようにしていく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	作成時期に会議を行い、職員が共通理解し話し合いをしている	会議で全職員から意見を聞きながら、個別支援計画を作成しています。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	支援計画を職員間で共有し、同じ方向を向いて行えるようにしている。	支援を1本化をして計画に沿った支援を行っております。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	標準化したツールや5領域を踏まえたアセスメント取ることで、利用者の特性や発達段階、ニーズに合わせて支援計画に反映して作成している。	日々の様子などのをよく見て、支援計画の見直しなどをしている
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5領域を入れた、支援計画や「家族支援」「移行支援」「地域支援・地域連携」などを企画して地域に溶け込めるような支援を立案している。	ガイドラインを全員で確認し。計画に沿った支援を行っています。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	月の活動プログラムをこれまでのPDCAを振り返りながら全職員で意見を出し合って立案している。	子ども達の発達に合わせて、継続していくものと変化していくもの等を工夫して立案していく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	PDCAサイクルを活用し活動の充実と改善。また発達的視点、療育的視点からの反省を踏まえ、新しいプログラムを加えている。	子ども達の状態・興味・ニーズを考えながら立案し、自身が自分のできたを感じることができるような活動をしていく。

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
供	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	支援室・学習室に、各2間あり、利用者の様子に応じて使い分けられるようにしている。	部屋の区切りが多く、死角ができるため、部屋の使い方や職員配置が課題。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	集団活動を通じ個別に対応いたしております。	こうあるべき等押し付けるのではなく、自発性を高めどうしたらよいのかを個々の状況に合わせ個別活動と集団活動により適宜組み合わせていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	前回の反省点や各利用者の状態を踏まえ、支援内容について打ち合わせをしている。	活動や支援について共有しているが、役割分担についてさらに確認していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	終了後や翌日に支援の振り返りを行っている。	職員の主観が入らないよう客観的な様子を伝えあい、振り返っていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	日々の記録の書き方研修実施。支援の検証改善は都度個別支援計画に反映できるよう支援会議議事録を取る。	全職員が利用者様の行動について考えて次に繋げられるよう、記録する事で見えない思いにも寄り添える支援ができるよう、これからも努めていきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	短期目標は６か月と設定してあるが、見直しの必要がある方に対しては適宜見直しを行う。	今後も支援会議を重点に置き、利用者様に応じた成長を見極め、計画作成を丁寧に行いたい。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	ガイドラインに合わせて楽しく出来るように工夫して作っている	自立・日常生活・創作・地域交流を組み合わせての個別支援計画を作成しております。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	活動の企画に選んで遊ぼうなどの自己選択ができるものを出している。	活動だけではなく、普段から自己決定できるように支援を行っている。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	サービス担当者会議等参加要請がある時には、管理者が参加している。	参加要請だけでなく、こちらからご利用者様の困りごと等があった場合参加するだけでなく要請していく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	必要に応じて関係機関との連携をしている	障がい福祉、教育関係と連携することは多いが、地域の保育、保健、医療とはなかなか難しいため、保健、医療とのつながりを入れて支援を行えるようにする。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	送迎時に先生と情報共有したり、保護者との連絡をして行っている。	学校と放課後等デイサービスは、連携を密にとっていかなければ成り立たないので、お互いに歩み寄っていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	中津川市通所支援ネットワーク会議に、て情報共有してる。	一人一人の利用者様に関する情報について、より深く共有し合えるように努めていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	担当者会議で共有する。お問い合わせがあった場合は、保護者の許可を得て提供をする	今後卒業する利用者様が出てくるので情報を確実に提供できる準備をしておく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	必要に応じて指導、助言をもらっている	専門機関との連携が必要不可欠なため、事業所で抱え込むのではなく、多くの専門機関との連携を取り、情報共有を行っていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	夏休みを使っての学童と協力して行うなど企画している	今後も交流が出来る場を提供できるように企画していきたいと考えています。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	定期的に行われる協議会に出席し、様々な立場の方の話を聞いたり、意見交換をしている。	参加した時には必要な情報は職員に伝え、地域の施設としての心構えができるように努めていく。

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	支援室・学習室に、各2間あり、利用者の様子に応じて使い分けられるようにしている。	部屋の区切りが多く、死角ができるため、部屋の使い方や職員配置が課題。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	連絡帳や送迎時に、その日のあった出来事、成長、発達状況など常に連携を図っています	今後も利用者様が安心して過ごせる場所になれるよう、保護者の方と意思疎通を重要視していく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	会社を通じて、ペアレントトレーニングの研修案内しています。	たくさんの保護者の方に参加していただけるように声掛けをしていく。
保護者への説明責任等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	契約時、重要事項説明書にて記載し必ず説明を行っている。	契約時に内容をわかりやすく伝えることを心掛けている。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	利用者や保護者の意見を尊重し、モニタリングや送迎時等行っている	面談後に、支援計画を作成の際に職員で利用者に対して最善の利益の優先考慮し作成、保護者にも見ていただき、了承を得ている
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	モニタリング時に同意を得ている	支援計画を説明を行い、気になる所などのないか確認をしていき、同意を得ている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	本人だけでなく、ご家族に関すること等もお聞きし、一緒に考える事を大切にしている。	利用者のみならず、兄弟姉妹の悩みも聞くことで保護者の方の気持ちに寄り添えるように努めている。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	父母会の支援はしていないが、カフェ開催の案内をしている。	子育てに限らず、なんでも気軽に話せるような機会を設け、沢山の方に参加していただけるような施設を目指して行きたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	上長への報告と早めの対応ができるよう、適切に対応しております。	発生した問題についてどのように対応したのか、具体的にお伝えする事で、安心して通っていただけるように努力したい。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	ホームページ・毎日発信、会報は月一で会社・事業所で発送しております。	会報による情報提供やぽけっと新聞の発行。毎日の活動日誌をホームページにて掲載し保護者の方に継続して伝えて行く。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	年1回研修を行い、啓発に努めている	今後も個人情報には十分に気を付けていく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	常にどうしたらよいのか職員一人の意見での対応にならないように共有しツールの活用や、連絡帳や送迎時に保護者につたえている。	言語だけでなく、表情や前後の状況から気持ちを汲み取る事に努め、子ども達が安心して過ごすことができるよう、また家族との情報共有にも々心掛けていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	地域の方に外部講師を依頼する等している。見学等は常に開かれた状況で、対応しております。	外部講師だけでなく、外出支援、避難訓練など地域の方との交流に努めていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	各種マニュアルを作成しており、いつでも見れるようにしている	県が定めるマニュアルに沿って徹底し、今後も職員、保護者に周知していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	年2回に災害を想定した訓練を行っている。	消防署から職員を見ていただき、講評などのをいただいて今後に活かしている。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	アセスメントを取り、定期的に面談をし確認をして常に確認をしている。	てんかん発作や服薬に関しては、職員間で対応については、話し合っている。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	同意書を作成し情報を共有し、職員間で周知している。	指示書がある場合はそれに基づいて対応していき、職員が同じ対応をできるように徹底していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	各委員会で研修・訓練などのを行っている	安全には十分配慮し、危険なものがあれば移動するなどしている。利用者が安心して過ごせるように安全第一に支援をしていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	各種マニュアルを作成しており、いつでも見れるようにしている	緊急時にはすぐに連絡が取れるように体制は整えている。定期的に保護者の方に周知していきたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	日々の支援でヒヤッとしたことを記入して会議で話し合っている	振り返ることによって、危険な場所・行動を想定し職員が同じ対応ができるようにあたっていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	虐待防止委員会等で外部の講師の先生を呼び新人研修、中間層の研修などの行っている	虐待研修は職員は必ず受ける事となっており、常に虐待防止が意識できるようにしていく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	切迫性、非代替性、一時性を伴う場合以外は行いません。	必要な時が出てきたときは、説明と同意書を作成し、支援計画に記載していく。